

# 地域のつとめ場事例集

## ～第1版～



西宮市

社会福祉法人西宮市社会福祉協議会

# はじめに

現在、高齢化や単身世帯の増加が進む中、社会的孤立の状況はますます深刻化しています。そうした中、西宮市内では「つどい場」と呼ばれる、新たな居場所が生まれてきています。

「つどい場」は、個人の家や空き家を活用し、住民同士がより身近に、気軽に集まれる場所です。「つどい場」は、開かれる方の想いを基に、それぞれの特徴を活かし、実施されています。

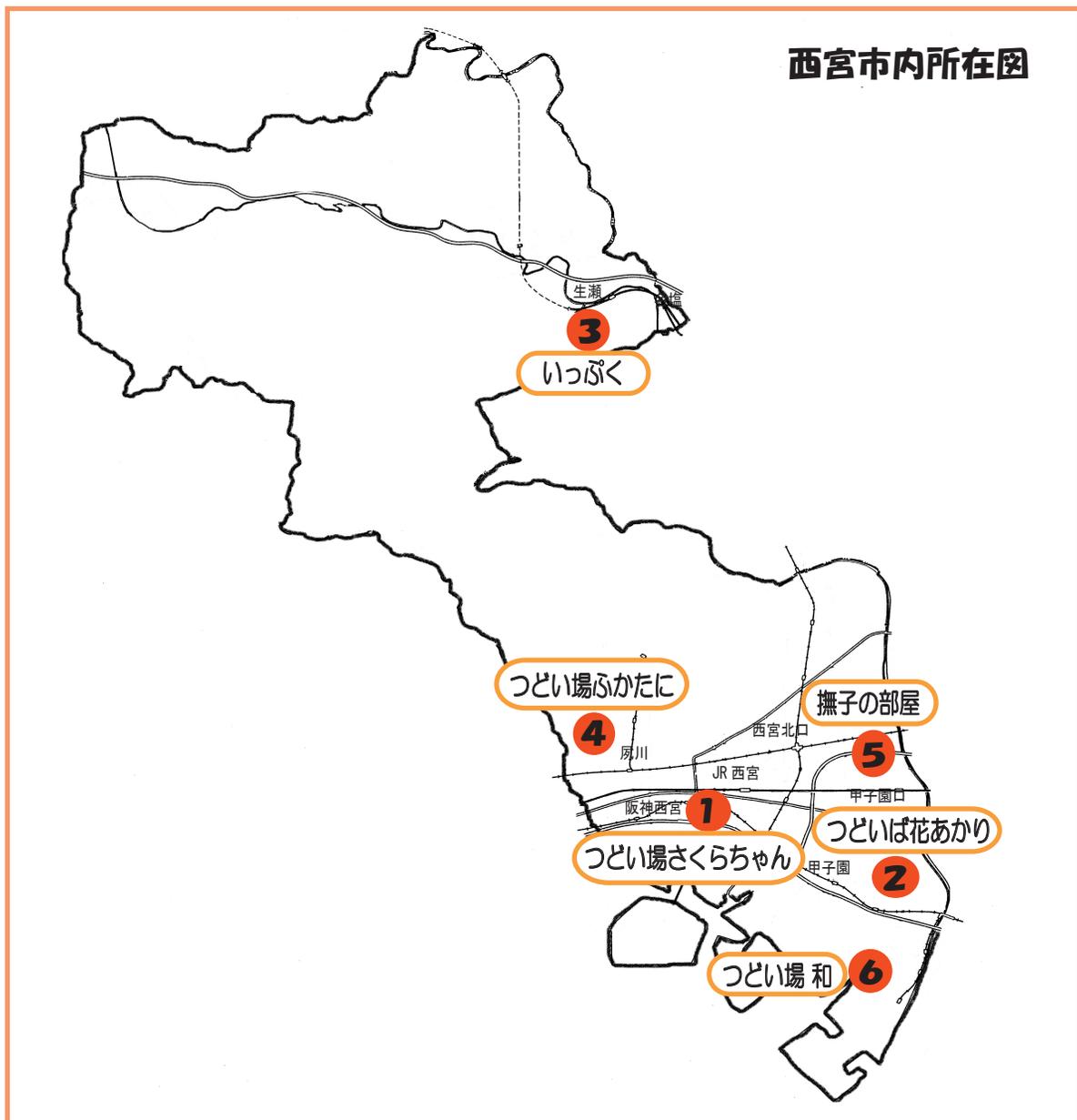
西宮市社会福祉協議会では、平成25年度から「地域のつどい場推進事業」の委託を西宮市から受け、「地域のつどい場づくりフォーラム」や「つどい場交流会」を開催を通して、つどい場に関する広報・啓発、つどい場同士の交流等を行い、つどい場づくりの推進を図っています。

この事例集では、市内で開かれているいくつかの「つどい場」について紹介し、開設者の想い、工夫をされていること、これから目指すものなどをまとめています。事例集をきっかけとして、市内で「つどい場」実践がさらに広がることを心から願っています。

西宮市  
西宮市社会福祉協議会

# 目次

- |                     |     |
|---------------------|-----|
| 1. つどいば花あかり         | P 1 |
| 2. ご近所高齢者の集い場「いっぴく」 | P 2 |
| 3. つどい場 “ふかたに”      | P 3 |
| 4. 撫子の部屋            | P 4 |
| 5. つどい場さくらちゃん       | P 5 |
| 6. つどい場 和（なごみ）      | P 6 |



## 自宅開放型

## つどいば 花あかい



運営主体：岡田寿美子さん  
ボランティア代表 久門都さん  
住所：西宮市小松東町  
開催頻度：月2回  
第1・3水曜日 13～15時  
利用料：100円（夏季・冬季は、150円）  
1回の利用人数：約25人  
ボランティア人数：9人  
開設年月：2011年1月

### つどい場の紹介

時間になると、ご近所の方々がぞくぞくと集まってこられ、二間ある岡田さん宅1階は、すぐにいっぱい。リサイクル品等集められたテーブルやイス、それでも足りない時は、牛乳パックイスが活躍。

久門さん、ボランティアの方を中心に、簡単な体操と歌、漢字クイズ。みなさん難しい漢字も、ここで覚えて、楽しみの一つに。

後半は、おしゃべりに花が咲きます。

岡田さんは手芸が得意。持ち寄られた布や毛糸で、手づくりの小物などをプレゼントしたりされています。

### 活動を始めたきっかけ

ご主人を見送られた後、ひとりになって、外に出て行ってもお友だちがなかなかできないから、家でお茶を飲んで、お話合いができたらと、民生委員の久門さんに相談されました。

久門さんは、社協小松分区分区長に相談。地域の中で、小さな集まりがあったほうがということで、すぐに準備を始めました。

岡田さんは、だれでもが集まれるようにと、手すりをつけるなどリフォームもされました。

2010年12月末実施に向けて話し合い。その後手伝ってくれるボランティアさんを募り、翌年1月には、第1回目が始まりました。

1回目から、ご近所の方がたくさん集まってこられました。

#### お父さんが生前言っていた

「わしがおらへんようになったら、おまえの好きなことをせえよ」という言葉が「花あかい」を始める背中を押してくれました。



(左)久門都さん

(右)岡田寿美子さん

### 花あかいを始めてよかったこと

〔岡田さん〕

ご近所と仲良くするのが一番と思って、はじめてよかったです。

このあたりは、一人暮らしの人も多い。ここに来てもらったら、また外であっても話がはずみます。

〔久門さん〕

ここに来た人がどんどん仲良くなって、お休みされるとお互いにどうしたの？と聞いてくださいます。

家に引きこもっておられた方も、出てこられるようになって、今では、花あかりがあることを感謝していると言ってくれています。

ふつうの家で、知っている人がいるということが、みなさんの安心感、楽しみになってくださっているようです。

### 岡田さんの願い

「もしわたしが寝込むことがあったら、ベッドで寝ていても、続けてほしい。起きられなくても、声聞いて、みなさんの話聞くだけでもいいから。わたしが死ぬまで、ずっと続けてほしい。」

## 自宅開放型 ご近所高齢者の集い場 いっぷく



運営主体：荻野容子さん  
住 所：西宮市生瀬町2丁目  
開催頻度：月2回  
第1・3火曜日 13～15時  
利用料：100円  
1回の利用人数：約12～13人  
(ボランティア含む)  
開設年月：2012年5月

### つどい場の紹介

ご近所の高齢者の方々が、気軽に“いっぷく”できる場として、ソファでくつろぎながら、おしゃべりを楽しまれる人。小物を作ったりする人。また、男性陣は麻雀卓を囲んでおられます。

また、生瀬の草花、伝統行事にも触れる機会もあり、七夕まつりの際には、七夕飾りを参加者で作り、まつりを盛り上げる一役となりました。このように、若い世代の住民とも、交流をしながら、自分たちが住み続けられるまちに、若い世代の手に受け継いでいけるまちづくりの一役としても、“いっぷく”は存在しています。



### 活動を始めたきっかけ

生瀬は、急な坂も多く、外出するのも一苦労。その上、高齢化率も高い地域。その中で、子どもたちも巣立ち、現在はご主人と二人暮らし。空いている部屋があり、家の前を通る方が、「ちょっといっぷくしていつてもらいたい」という思いから開設。

「ご近所高齢者」にこだわり、案内は自宅周辺の一定区域に限られました。

ご主人の広報づくりや、ご近所との関係づくりなど縁の下の力持ちとして協力もあり、男性も来やすいようにと、麻雀をとりいれるなど工夫もされています。

### いっぷくがめざすもの



荻野容子さん

やはりご近所の方が、散歩の途中などに気軽に飛び込んできて、いっぷくしてもらえる場所でありたいと思います。

健康である限り、頑張りすぎないで、いつまでもご近所のつどい場として開放していけたらいいな～と思っています。



運営主体：西本志津子さん

住所：西宮市深谷町

開催頻度：月1回

第3水曜日 13:30~15:30

利用料：200円

1回の利用人数：約15人、ボランティア約3人

開設年月：2012年7月

### つどい場の紹介

近隣にお住まいの方々が集まれ、お茶とお菓子を楽しみながら、会話がはずんでいます。

男性の方も参加されて、地域の歴史の話や、それぞれの趣味のお話など、毎回話題がとぎれずに、楽しいひと時となっています。

### 活動を始めたきっかけ

西本さんは、民生委員として、長年近隣の方の見守り、支援活動に関わる中で、地理的にもなかなか公民館等も利用しにくい地域で、市の職員からのすすめもあり、近隣で気軽に集まる場所ができればとの思いから、自宅を開放されました。

近隣の方を中心に声をかけられて、参加者も徐々に増えてこられました。

最初は、お茶なども参加者が来られる都度に用意されていましたが、それではスタッフがずっと台所にいる状態になってしまうからと、最近では、手を抜く工夫もして、来られた方と一緒に楽しめる雰囲気になってきたとのこと。



### ひと・もの・おかげ

#### ひと

これまでのつながりから、西本さんの想いに共感した方がボランティアとして手伝われています。

おたよりをつくったりするのも、それぞれの得意分野で分担をしながら、当日は、いっしょに楽しく活動されています。

#### もの

西本さんの自宅1階 リビング・ダイニング部分を活用。

お皿などは、後片付けの手間を省くために、半紙・懐紙などを利用しています。

#### おかげ

200円を茶菓子代として利用しています。

### これからめざすもの



西本志津子さん

ここで、いろいろなお話をきけることが、自分にとっても楽しみです。

今後の目標として、経験豊富な参加者が多いので、ボランティアとして、その経験を活かし、若い人達の相談窓口となれば異年齢交流の場としても成長できるのではと思います。



運営主体：吉田照美さん

住所：西宮市甲子園口北町

開催頻度：月2回

第2・4火曜日 11～16時

利用料：500円（お昼の軽食あり）

午後のみ利用の場合 300円

1回の利用人数：約20人、ボランティア約5人

開設年月：2012年9月

### つどい場の紹介

地域の方々が、お話をしたり、軽い運動をしたり、音楽を楽しんだりしながら、気軽にお集まりいただける居場所として、開設。地域の方のギター演奏やそば打ちなど楽しい行事も季節ごとに開催している。はじまりの時間には、ボランティアの講師に来てもらい、みんなで体ほぐし。あとは、自由におしゃべり、お食事を楽しむスタイル。

撫子の部屋を始めた当初から、口コミでうわさが広がり、中には遠方から来られる方もおられます。

### 活動を始めたきっかけ

吉田さんは、民生委員や社協分区での活動など、長年地域福祉活動に関わる中で、なかなか地域の活動に参加しにくい方や認知症状が出始めた方などが、気軽に集まれる居場所をつくりたいと、10年以上前から思い続けてきました。

もともと、料理が好きで、家に眠っている食器たちをつかって、お食事もしょしょに食べてもらえればとの思いももっていました。

民生委員を退任したのをきっかけに、少しずつ片づけをすすめ、自宅を開放されました。



### ひと・もの・おかわ

#### ひと

これまでの地域活動で関わってきた方を中心に、吉田さんの想いに共感した方がボランティアとして調理などを手伝われています。

ただし、当番を決めたり、役割を決めたりしないのが吉田流。手伝いたいと思う人が自らの意思で集まり、自ら役割を見つけることを大切にしています。体操やクリスマスなどのイベント出演なども地域の中で得意な方に声かけをして、手伝ってもらっています。

#### もの

吉田さんの自宅1階部分を活用。つどい場を開設するにあたり、入口スロープの改修などを行われました。食器は、吉田さんがこれまで自宅で使っていなかった物がたくさんあり、そうした食器を使っています。



吉田 照美さん

### これからめざすもの

現在、参加されている方が毎回楽しみに来られる様子を見ると、開設して良かったなと思っています。ただ、やはり男性の参加者はほとんどなく、また少し遠方の元気な高齢者が集まる傾向があり、男性やご近所で遠くまでは出かけられない方が気軽に参加できる「つどい場」にするにはどうすればいいか頭を悩ませています。

これからも、他に開かれているつどい場の様子も参考にしながら、「撫子の部屋」らしい雰囲気づくりを心がけていきたいと思っています。

## 民家活用型 つどい場 さくらちゃん



運営主体：NPO 法人 つどい場さくらちゃん

代表 丸尾多重子さん

住所：西宮市今在家町1-3

TEL 0798-35-0251

開催頻度：ほぼ毎日

利用料：500円 昼食別途500円

開設年月：2004年3月

### つどい場の紹介

さくらちゃんを訪れるのは、介護家族から介護されるご本人、介護職の人、行政の福祉関係者、学生さんなどさまざま。

中にはデイサービスなどが肌に合わず、行き場をなくしたご本人が家族とともに定期的に訪れたり、介護に悩み、飛び込みで来られたり…

利用者は、年間で延べ約2000人。

### 活動を始めたきっかけ

代表のまるちゃんこと、丸尾多重子さんが自身のご家族の長い介護体験から、ふつうの家で、介護する人には“いつもつどえる場”と“温かい食事”が欠かせないと、だれもがいつでも駆け込めて相談でき、ともに食事をして、本音が言える場をつくりたいという思いで、家を探しまわり、当初はマンションの一室でスタート。2008年現在の一軒家に移りました。

つどい場と同時に、介護家族も介護を仕事とする人も、いっしょに学ばなあかん！という思いから、「学びタイ（講座の開催）」、ご本人も家族ももっと外に出ようと「おでかけタイ」、家でもご本人、家族があんしんできるようにと「見守りタイ」の活動を展開しています。



### ひと・もの・おかね

#### ひと

まるちゃんが介護中に知り合った、ご家族の介護をされている方々や、介護職、看護職など福祉関係者の方々、また社会福祉協議会職員が支援をしながら、まったく前例のない「つどい場」が立ち上がりました。

#### もの

家具などは、呼びかけをして、家で使わなくなったテーブルやイス、ソファなどを寄贈してもらったり、まるちゃんがもっていた食器などを持ち込んでスタート。未だに家具がチグハグだけど、それがいい味をだしています。

#### おかね

家賃等経費が必要で、当初は私財を投げ打って、借金もしながらの運営。2007年NPO法人格をとり、さまざまな研修会等を企画実施し、参加費収入等でなんとかやりくりをしながらの運営。

### これからめざすもの

「地域」の中で暮らし続ける条件は“食”と“つどい場”と“在宅医療”。



丸尾多重子さん

立場を超え、肩書き無し、一人の〈ひと〉として〈まじくるつどい場〉で語らい、自分なりのできることをしながら、旨いものを食って、楽しい日々を地域の中で自分の人生を完結しませんか？街のあちこちに、いろんなくつどい場〉が生まれることを願っています。



運営主体：鳴尾東ふれあいまちづくりの会  
 住所：西宮市上田中町14-38  
 開催頻度：毎週水・土曜日  
 10時30分～16時30分  
 利用料：無料（衛生管理上飲食の提供ができません）  
 野菜販売：水・土曜日9時30分～（売切れ次第終了）  
 1回の利用人数：約30人、ボランティア人数：4～5人  
 開設年月：2013年4月

### つどい場の紹介

世代間交流をねらいとして、お年寄りから子どもたち、子育ての場としてのつどい場。西宮の新鮮野菜を地元の人に食べてもらう地産地消を掲げた野菜の販売や、障がいのある人たちの雇用創出も目的の一つに掲げています。

開設時のお昼間は、ご近所のママさんのお茶のみ場、高齢者の方、障がいのある方の居場所に。夕方には学校帰りの子どもたちが集まって、宿題をしたり、遊んだり…にぎやかな時間。

野菜販売は、その新鮮さが大好評で、販売前には行列もできるほどです。

### つどい場和キャラクター



壁には子どもたちのペイント。  
 なごみんもいたるところにかくれんぼ。  
 それを探して遊ぶ子どもたちも。

### 活動を始めたきっかけ

活動を運営するのは、主に NPO 法人くろーばー。同法人は地元出身の関西学院大学の卒業生や学生が中心となり、子どもたちの野外活動の提供、「まちのがっこう」の実現をめざし活動しています。

地域のさまざまな方の力を借りて、地域に根ざした活動をとの思いから、鳴尾東地域の青少年愛護協議会、コミュニティ協議会、地域代表、ボランティア団体くれよん（武庫川女子大学学生中心）と協議を始め、「鳴尾東ふれあいまちづくりの会～和～」を設立。

地域の方の個人宅を提供いただき、リフォームも地域の企業の協力で実現。若者たちが主に運営をし、地域の方々がそれを支え、活動されています。

### これからの～和～



田村 幸大さん つどい場「和」がスタートして半年。まだまだ「知って・来ていただく」ことが一番の目標ですが、今後は近隣のお年寄りの方への声かけや、障害者と地域の方との交流、地元大学生とともに、多世代が交流できるイベントを定期的に発信していきたいと考えています。

## 地域のつどい場事例集（第1版）

平成26年（2014年）5月発行

発行 西宮市・社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会  
編集 社会福祉法人 西宮市社会福祉協議会地域福祉課  
〒663-8233 西宮市津門川町 2-28  
TEL : 0798-23-1140 FAX : 0798-23-3910